

## 普及活動検討会実施報告書

(石巻) 農業改良普及センター  
 実施月日：令和4年8月30日  
 実施場所：石巻合同庁舎(石巻市)

## 1 検討内容

No	検討項目
	<b>現地検討</b> (1) プロジェクト課題 N02 対象法人 (2) 重点活動課題 N02 対象新規就農者 <b>総合検討</b> 令和4年度プロジェクト課題(4課題) N01 産地を形成する多様な担い手のステップアップによるいちごの産出額向上 N02 地域のモデルとなる園芸法人の育成強化 N03 地域活性化に向けた高収益作物(アスパラガス)の導入・定着 N04 長面地域における大規模経営体の持続的な水田農業の実現

## 2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	2	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	2	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	2

## 3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(評価のコメント)	普及センターとしての対応方向
課題 No.1 産地を形成する多様な担い手のステップアップによるイチゴの産出額向上	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境制御技術の導入は、いちご以外でも少しずつ普及してきており導入者の評価も良い。</li> <li>産地としてのブランド確立は十分に果たされたものと思われませんが、今後は個別経営ごとの固有課題が表面化してくることが予想されます。法人ごとにキメ細かく対応することが理想ですが、課題を類型化してテーマごとに支援する方法も検討の余地があるものと考えます。</li> <li>肥料、資材、燃料等のコストの値上がりが続いている。安定した高品質のイチゴで収量、販売額が増えるよう引き続き各生産者、法人に合った基本技術指導、栽培管理方法の指導、課題改善の支援をお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境制御技術の導入により、生育にあった環境設定を数値で管理し、収量増につながる農業者が増えてきています。優良事例を共有化し、良い結果につながるよう支援してまいります。</li> <li>前半の活動は、法人・個人経営それぞれの課題把握に努めました。課題は多様であり、個別対応に限界もあるため、個々の課題を整理し、類型化した上で指導方法をまとめて行うなど工夫してまいります。</li> <li>生産費にかかるコスト増は、喫緊の課題です。部会や法人に対し、今後も生産コスト低減技術やコスト増を補う増収技術等の助言などを行ってまいります。</li> </ul>

検討項目	評価値 平均値		普及センターとしての対応方向
課題 No. 2 地域のモデルとなる園芸法人の育成強化	3.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>複合環境システム導入により、収量アップの計画ですが、経営全体を見て、労力配分や経営管理（労務・資金計画・収支予測等）の側面からの支援強化を望みます</li> <li>今後とも管内の園芸に係る環境は高齢化によるリタイアが進むものと思われるので、大規模園芸法人が産地維持の中心的な役割になって行けるよう、関係機関と連携し取組みを進めていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境制御技術の導入による収量増加に対応した労働力の確保が必要となり、経営面に対する影響も分かってきました。今後は法人ごとの適正な労務管理も併せて支援してまいります。</li> <li>震災後に設立された施設園芸法人が、管内の園芸産地の中心となるには、生産性の向上と経営の安定化が課題です。引き続き、個別の課題をしっかりと解決できるよう支援を続けてまいります。</li> </ul>
課題 No. 3 地域活性化に向けた高収益作物（アスパラガス）の導入・定着	3.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>天候不順等の影響もあるようですが、栽培方法について試行錯誤の段階にあり、当地の気候風土に適合した手法が確立されていない印象を受けた。PDCAを繰り返し、安定した収穫に至る手法の確立・定着に向けて、さらなるご尽力をお願いいたします。</li> <li>立茎栽培に移行する人が増えている。高収益作物として期待され、市場、直売所から安定出荷が望まれるアスパラを採りつきり栽培とハウス立茎を併せ石巻管内で定着するよう引き続き勉強会の開催やSNSでのPRやブログでの情報の発信の継続をお願いします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「採りつきり栽培<sup>®</sup>」については、当該地では春季の低温等の影響により、初期生育の不良や茎枯れ病の発生もある等、期待した収量に届かないことがわかってきました。しかし、アスパラガスに対する消費者ニーズは堅調で、市場からの引き合いも強く、今回の取組みをきっかけに、ハウスと組み合わせる人も出てきました。</li> <li>引き続き、当管内で明らかとなった採りつきり栽培の課題点とパイプハウスでの立茎栽培を組み合わせる栽培体系や経営収支の整理等、後半の活動で取りまとめます。</li> </ul>
課題 No. 4 長面地域における大規模経営体の持続的な水田農業の実現	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>地力の低い地域における土地利用型農業の経営は、生産性はもとより米価下落・資材高騰の影響も相俟って、厳しさを増しています。収入の安定とリスクの分散、ならびに労働力の平準化の観点から、収穫時期の異なる複数品種の導入について、ご指導をお願いいたします。</li> <li>震災後の復旧工事を見る限り、非常に厳しい生産が続くと想定されましたが、着実に土づくりが進められており、また、2年目となったWCSも生育量確保に向けた取組みがおおむね行われていると感じています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題実施前は、堆肥の施用が農地の3割でしたが、実施後は6割となり、その結果地力向上が実現し、畜産農家との連携も始まっています。今年度は、さらに効率的な施肥技術と経済性の比較にも取り組んでおり、収量の結果により、資材高騰対策として期待されます。また、リスク分散、労働力の平準化の観点から、乾田直播栽培技術の安定化に向けて引き続き支援してまいります。</li> <li>当該地域の転作は、水稻に限定される現状を踏まえ、WCS等の収量格差や生育不良等の原因について、技術支援を行っています。生産支援のみならず、労働力、採算性、販路、作付け計画等、将来を見据えた一体的な取組みを行う必要があります。関係機関の皆様と連携を図り、進めていきたいと考えています。</li> </ul>

<p>その他 御意見，御要望やお気づきの点がありましたら記載してください</p>	<p>普及センターとしての対応方向</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 夢や希望をもって農業に取り組んでいる方がたくさんいます。現在，生産費の高騰に悩まされており，農産物の売価に生産費が反映されるような考えが必要です。</li> <li>・ 肥料，資材，燃料等のコストの値上がりが続いているのでどの作物に関しても安定した品質で収量，販売額が増えるよう関係機関とも情報を共有し，引き続き各生産者，法人に合った指導，支援，巡回をお願いします。</li> <li>・ 今回，新規就農者の半澤さんのほ場を視察させて頂きました。近年は雇用による新規就農者が増加している一方，経営者として就農するケースは減少しています。地域の農業を担う次世代の存在は貴重な財産ともいえますので，今後も継続的なご支援を期待しております。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産資材等の価格高騰による生産費の拡大，農産物への販売価格への転嫁も難しく，農業者にとって苦しい状況が続いています。農業に携わる者として，現在の世界情勢や懸念される食糧危機に対し，国内産農産物の必要性や価値を伝えていく情報発信に，より一層取り組む必要があると認識しています。</li> <li>・ 県では，令和4年7月1日から資材高騰対策のため，生産コスト低減技術をまとめたマニュアルを発行しております。これらをもとに，栽培技術のみならず，経営管理面での効率化等も視野に入れた支援を行ってまいります。</li> <li>・ 自営就農を希望した方は，実際に就農するまでに，農地の確保，機械や施設にかかる資金の確保，労働力，販売先の確保等，多くの課題を乗り越える必要があります。</li> <li>・ 今後とも，関係機関と情報共有を図り，日々の活動を通して各就農者の課題に向き合い，伴走型で技術，経営両面から，支援を継続してまいります。</li> </ul>